

研究機関：広島大学

研究課題名	門脈大循環シャント閉鎖による予後の検討
研究責任者名	広島大学大学院医系科学研究科放射線診断学 教授 栗井 和夫
研究期間	2020年11月24日(倫理委員会承認後)～ 2025年3月31日
対象者	2011年3月から2020年8月の間に、広島大学病院消化器・代謝内科および放射線診断科で門脈・大循環短絡(静脈瘤含む)に対して、バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術やシャント塞栓術、経皮経肝的門脈塞栓術による治療を受けられた患者さんが対象です。
意義・目的	これらの治療効果については、現在症状を改善するという事は明らかになってはいますが、肝機能に及ぼす影響や予後に及ぼす影響についてはまだ解明されていません。今回、当院で上記手技を行った症例の予後に関わる因子を明らかにするため、この研究を計画しました。
方法	本研究は、診療録(カルテ)情報を調査して行います。 カルテから使用する内容は身長、性別、病名、背景肝疾患、血液検査(血球数、アルブミン、総ビリルビン、PT活性/比、クレアチン、ナトリウム、AST、ALT、ICG)、超音波所見、CT所見、治療時の所見です。個人を特定可能な情報は解析に用いません。
共同研究機関	ありません。
試料・情報の管理責任者	広島大学大学院医系科学研究科放射線診断学 教授 栗井 和夫
個人情報の保護について	調査内容につきましては、プライバシー保護に十分留意して扱います。情報が個人を特定する形で公表されたり、第三者に知られたりするなどのご迷惑をお掛けすることはありませんのでご安心ください。研究に資料を提供したくない場合はお申し出ください。お申し出いただいても不利益が生ずることはありません。
問合せ・苦情等の窓口	〒734-8551 広島市南区霞 1-2-3 Tel:082-257-5257 広島大学病院放射線診断科 職名 医科診療医 三谷 英範